



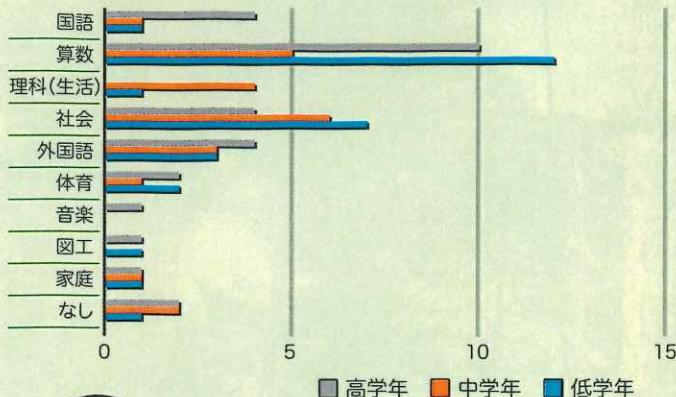
つまずき

苦手をチャンスにかえてみよう!



とは言っても苦手な教科を毎日勉強すること自体とても大変なことです。そこで今回は79名の保護者の方にもご協力いただき実は保護者の方も当時は苦手教科ありました…など。そしてその違いや効果的な改善方法もあわせて先生方に色々と聞いてみました！

Q. 保護者も当時、苦手だった教科は何ですか？



気になる

① 苦手なナンバーワンは！

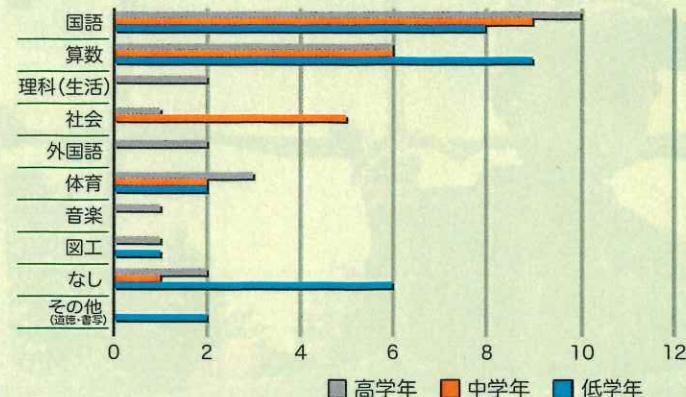
保護者は**算数**が苦手だったようです

全体の**34%**
(27名が回答)

お子さまは**国語**に苦手意識があるようです

全体の**34%**
(27名が回答)

Q. 子どもが苦手としている教科は何ですか？



② 保護者と子ども、なぜ違いがでるの？

それは、**インターネット**や**携帯電話**といった**SNS**等の普及が、子どもの頃の保護者と現代の子どもたちの大きな違いとしてあげられます。

そして伝える・知る方法がより便利になりすぎてしまい私たちがいつも使っている日本語そのものが子どもたちにとって難しいと感じているのではないかでしょうか。

③ 保護者から見て感じていること

低・中学年では、**学習が足りていない**と感じている方が**39%**

学習することが習慣化されていないお子さまが多く見られるようです。

一方、高学年では、**基礎と応用が身についていない**と感じている方が**64%**

学びに向かう力は、日々ついているものの復習をしていないお子さまが多く見られるようです。

point
あり！

- a) 基礎が身についていない
- b) 応用力が身についていない
- c) 学習力が足りていない
- d) その他(集中する力・言葉にする力・理解する力)

先生は、どう思いますか？

子どもたちの家の生活環境によってもそれ違つかと思いますが、現代はスマホ・ゲーム・YouTube等、音声と映像に触れる時間が多く文字を紙媒体で読み、想像を膨らませるという経験が足りていないのではないかでしょう。考える前にすぐネットで調べれば答えが見つかる時代です。自分はどう思うのか、どう考えるのか語らせる機会を家で作ると良いかもしれません。



point

どうしてそうなるのか、探求することが大切ですね！

point

帰宅したら決まった時間に宿題・自学をするという生活を徹底しましょう！

④ 今から直ぐできる対策とは？

保護者からの質問まとめてみました

先生
教えて！

Q. 物事を理解し伝える力を身につけるために必要な「今」できることは？

A. 親子の会話の中で「どうして？」と問い合わせ、子どもがどう考えているのか聞いて、話す・伝える場面を増やすことや、本の読み聞かせた内容がどんなお話をした？と聞いてみたり、**短い日記を書くこと**でどうか。

Q. 復習しても同じところでつまずいてしまう…高学年ともなるとどう教いたらいいのかわかりません…どうすれば？

A. 間違いなのか、そもそも理解できていないのか、**お子さんに間違いはどこなのか、なぜ間違えたのかを聞いてみる**。理解不足ならもう一度教科書やノートを見て復習しよう。間違いが分かっていれば似た問題に取組んでみよう。保護者は、参考書を片手に子どもと一緒に努力しましょう。

Check

「低学年」では楽しいと思う事が一番！

Check

「中学年」のうちに苦手意識を取除こう！

Q. 一部の低学年では算数が苦手のようですが、先生から見て子どもたちが主につまずいてしまう場所とは？

A. 100より数が大きくなると苦手意識があるようです。くり上がり・くり下がり全ての基本は10までの足し算・引き算です。生活の中にある具体物を使うと良いですね。**九九は単唱につきあってあげてください**。仕組みが分かれればおもしろいはず！

Check

「高学年」は先生を頼って聞きに来るのが一番！

Check

調査で一番多かった科目です

Q. つまずいた問題を再チャレンジするためのやる気はどうすれば？チャレンジしたいが、集中力がもたない…

A. 「一緒にやろう」と声をかけて下さい。つまずいたら必ず1人ではできないと諦めているはずです。やる気スイッチは人それぞれですが、できているところをまずは褒めよう。

Q. 多くの子どもたちが国語を苦手としていますが、国語ってそもそもどう復習するの？漢字の読み書き以外では何をしたらよい？

A. 日記など身近なことを書くことから始めるはどうでしょう。**親子で交換日記にしても良いと思います**。本に触れる機会を増やすことで、語彙力も高まります。

⑤ ご家庭での工夫も！

- ✓ 悩んでいる時には、噛み砕いて理解してもらえるよう説明をしている
- ✓ 一緒に調べたり、考えたりしている
- ✓ 日常の中で問題を出したりしている
- ✓ ゲームの要素を取り入れて学習している
- ✓ 親子の会話を工夫している
- ✓ とにかく褒めまくるようにしている

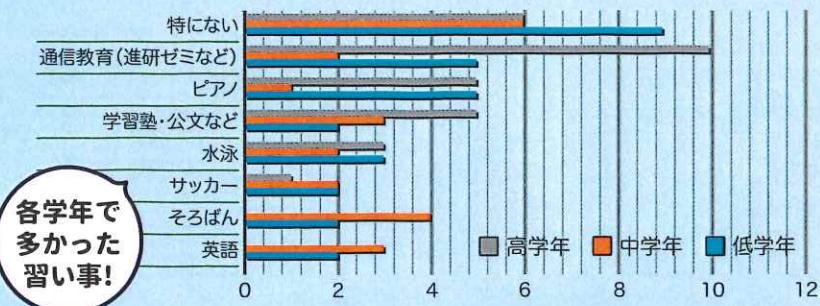
Good!

勉強「やりなさい」「やったの？」と言うだけでは子どもは、やる気になりません。保護者も当時そうだったように保護者自身がお手本となる必要がありそうです。



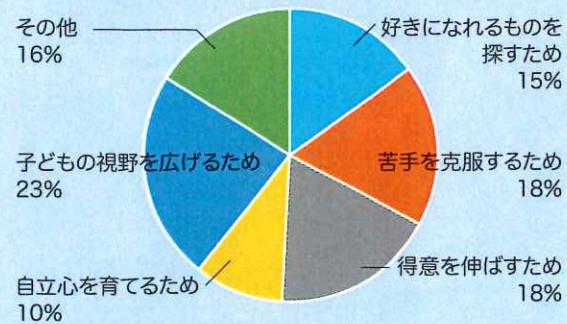
習い事にも注目してみよう！

① みんなは、どんな習い事をしているの？



アンケートをご協力いただいた中で**「苦手教科を克服するため」習い事をしている子どもたちは17名、内23%（約4名）が改善され、一方12%（約2名）が改善されていない、65%（約11名）がわからない**とお答えいただきました。苦手教科に特化しない子どもたちは、低・中学年ともに家庭で「多くの問題を解く」と答えた方が31%、一方高学年では50%の方が本人の希望に任せるとお答えいただきました。

② 保護者の方が思う習い事の目的とは？



Check

何事も継続することは簡単なことではありませんが、やってみたいことをやる、子どもにとって自分が輝けるもの、楽しいもの、夢に向かうもの、それが習い事だと調査するうえでわかりました。

大丈夫?

子どもの身を守るためにには…

～子どもの安全check～

最近、子どもたちの安全に関わるニュースが多くなってきてますね。通学時や遊んでいる時の子どもたちの身の回りで起こりうる危険を今一度、ご家庭でも確認してみましょう!

あれっ?
何だか変な人が…
～不審者対策～

「よ～く見てみよう!」

黒い服、黒い帽子、サングラスって明らかに怪しい人ってイメージですよね。だけど不審者は男女年齢関係なくどこにでも、ごくごく普通にいる人が多いのです…行動をよく見てみると「あれっ?」って思うその気持ちが大切です!

「不審者って早く気付こう!」

それ違うと顔をそむけたり、目がキヨロキヨロしていたりしたら「おやっ?」って思いますよね。意識してみると気づくけれど、いつもと同じ慣れた道だと意識が薄くなってしまうので要注意です!慣れている所こそ気をつけてください!

「子どもが不審者にあわないために!」

毎日通る通学路でも、まわりを意識して歩くように声掛けするだけで少し違ってくるようです。また、挨拶を習慣づけると地域とのコミュニケーションも高まってくるので日頃からご家庭でも挨拶を心がけると良いかもしれませんね!

事故に気をつけよう!

★子どもの事故で多いポイント

- ✓ 道路の横断中
- ✓ 夕方の時間帯
- ✓ 自転車
- ✓ 女の子より男の子

★子どもに繰り返し伝えたいキーワードは…

道路には危険がいっぱい!
車は、いつどこからどう来るのかわからないよ!

★交差点、青信号で歩いて渡っていても100%安全ではありません…

横断する時も左右をよく見て渡りましょう。右折左折の車や信号の変わり目でむりやり交差点に進入してくる車もいるので、子どもには道路を渡る時・歩いている時も急に飛び出さず落ち着いて歩くことを伝えていきましょう。

最近は、自転車との衝突事故も多いようです。

歩きスマホも危ないです!毎日下校時には警察署の方もパトカーで見回ってくれたり、児童館の館長さんや町内会の方々も交差点などで見守ってくれています。

知ってるかな? プチ情報

こども110番の家

岩見沢市のこのステッカーを見たことがある方は、どのくらいいますか?多分、ほとんどの方が見かけることが少ないのでないでしょうか。災害時や事故、不審者から逃れる等、助けを求めるために駆け込んで良いというマークです。覚えておくと安心ですね。



公共機関のホームページやメールを活用しよう

犯罪から身を守るために必要な「子ども被害情報」、「犯罪発生・防犯対策情報」及び「お知らせ情報」なら、ほくとくん防犯メールが役立つよ!

ほくとくん防犯

検索